

平成20年度 環境技術実証事業
ヒートアイランド対策技術分野（建築物外皮による空調負荷低減等技術）
ワーキンググループ会合（第2回）議事要旨

1. 日時：平成20年9月2日（火） 第1部 10:00～10:40 第2部 10:40～11:40

2. 場所：鉄鋼会館8階803号室

3. 議題

－第1部（公開）－

- (1) これまでの経緯と現状について
- (2) 実績のある実証機関について
- (3) 高反射率塗料の実証試験要領の概要について
- (4) その他

－第2部（非公開）－

- (5) 実績のない実証機関の選定について

4. 出席検討員：佐土原聡（座長）、足永靖信、近藤靖史、武田 仁、森川泰成、笠松正広

5. 配付資料

- ・資料1 ヒートアイランド対策技術分野（建築物外皮による空調負荷低減等技術）ワーキンググループ会合（第1回）議事要旨及び議事概要（案）
- ・資料2 実証機関応募書類（大阪府環境農林水産総合研究所）（委員限り）
- ・資料3 実証機関応募書類（財団法人建材試験センター）（委員限り）
- ・資料4 ヒートアイランド対策技術（高反射率塗料など）実証試験要領（案）
- ・資料5 実証機関応募書類（財団法人日本塗料検査協会）（委員限り）
- ・資料6 スケジュールについて

- ・参考資料1 平成20年度ヒートアイランド対策技術（建築物外皮による空調負荷低減等技術）実証試験要領（平成20年7月22日制定版）
- ・参考資料2 「NEW環境展」（平成20年9月18日（木）～20日（土））
- ・参考資料3 「エコビルド2008」（平成20年10月1日（水）～3日（金））

6. 議事

－第1部－

- ・第1部会議は公開で行われた。
- (1) これまでの経緯と現状について（事務局からの報告）
 - ・前回会合（第1回WG会合）内容の確認。（資料1の説明。）
 - ・7月22日に環境省及び建材試験センターのHPにて実証試験要領（参考資料1）の公表と共に実証機関の公募（平成20年7月22日～8月1日）を行い、3機関応募があったことの報告。

- ・応募3機関の内2機関は実績のある実証機関（大阪府と建材試験センター）で、8月6日付けで環境省承認のもと選定したことの報告。
- ・応募3機関の内1機関は、実証機関として実績のない応募機関について、本日この後の非公開議事にて選定審議を行うことの説明。

(2) 実績のある実証機関の申請内容について（事務局からの報告）

- ・資料2, 3に基づいた大阪府と建材試験センターの申請内容の概要説明。

(3) 高反射率塗料の実証試験要領の概要について

- ・資料4に基づき、ヒートアイランド対策技術（高反射率塗料など）実証試験要領に関する事務局からの説明。
- ・試験項目中の「性能劣化の把握」は、屋外暴露前後の日射反射率、長波放射率、明度及び付着性により定量化した数値で示す。なお、屋外暴露は、建材試験センターの場合、同センター中央試験所（埼玉県草加市）で行う予定。（確認された事項）
- ・要領で示している明度は標準であり、実際の試験体の明度は別途測定する。（確認された事項）
- ・新規で計算対象とする体育館、工場（倉庫）については、別途具体的モデルで示す。（確認された事項）
- ・同要領に示した計算対象建物は、最低1建物条件は行うものとし、申請者の選択とする。（確認された事項）
- ・実証機関ごとに実証方法が異ならないように、各実証機関は当該試験要領に基づき、同じ試験方法で実証を行う。（確認された事項）
- ・市販の高反射率塗料の中には、他の断熱材に代わる「断熱塗料」として報道・流通されているケースもあり、今回の実証における断熱評価の扱い・位置付け等について別途検討を要する。（議論・課題となった事項）

(4) その他

- ・環境省より、参考資料2, 3を基に、ヒートアイランド対策技術に関連する展示会の紹介。
- ・今後のスケジュールについて、事務局より資料6に基づき説明。

—第2部—

- ・第2部会議は非公開で行われた。

(5) 実績のない実証機関の選定について

実証機関として実績のない応募機関（財団法人 日本塗料検査協会）に対し実証要領に基づきヒアリング・質疑を行い、選定審議を行った。その結果、実証機関として選定することで確認された。